

連合「なんでも労働相談ダイヤル」(☎0120-154-052)  
2014年集計結果

<集計期間>2014年1月1日~12月31日

<集計対象>47 地方連合会、連合本部

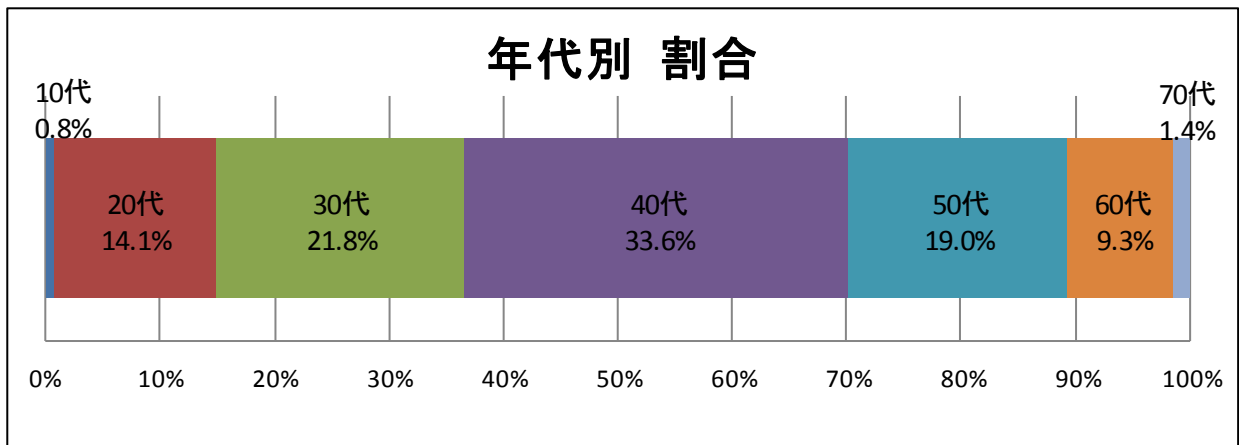
<相談件数>15,659 件

- 厚生労働省など他団体の労働相談対応も増えていることもあり、前年より件数は減少しているが、16000件近い労働相談が寄せられている。
- 一方、メールによる労働相談受付は増加傾向にある。

<性別割合>男性 54.1%、女性 45.9% (未報告分除く)

- 過去2年間と比較すると、女性の割合が上昇している。

<年代別割合 (不明除く) >

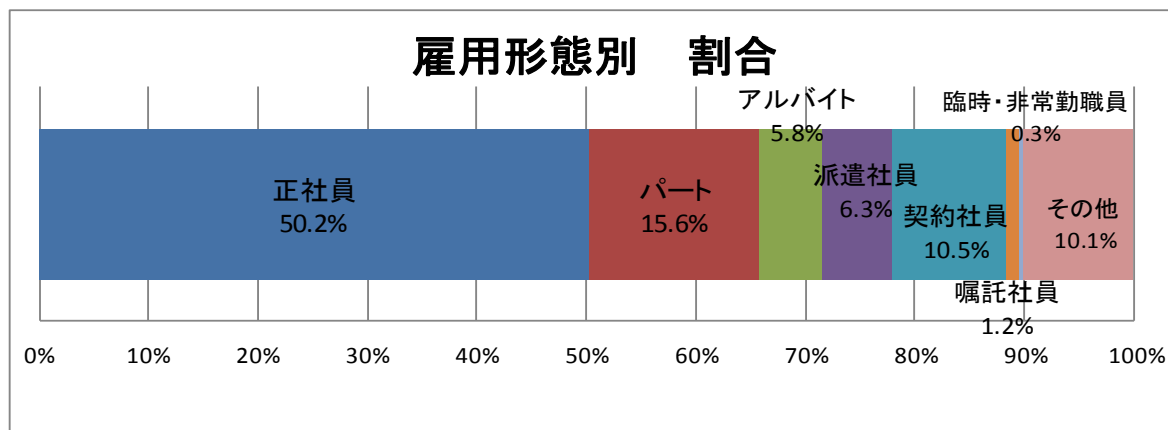


- 40代からの相談が33.6%と最も多く、次いで30代が21.8%、50代が19.0%となっている。前年と比べ、若干ではあるが10代、20代の若者からの相談割合が上昇した。

<業種別割合・上位 (未報告除く) >

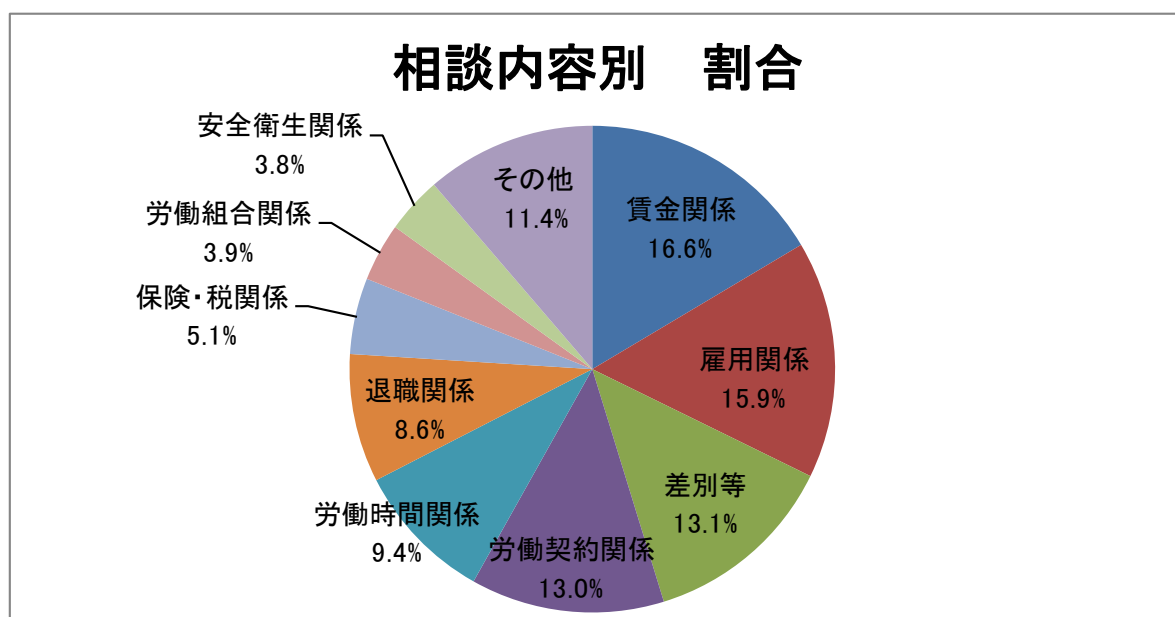
サービス業 (他に分類されないもの)	16.6%
製造業	16.4%
医療・福祉	15.3%
卸売・小売業	11.9%
運輸業	9.3%

<雇用形態別割合（不明除く）>



- 雇用形態別では、正規労働者 50.2%、非正規労働者 39.7%となっており、年々非正規労働者からの相談が増加している。「その他」には求職者や生活困難者等からの生活相談が含まれている。

<相談内容割合（未報告除く）>



- 賃金未払いや最低賃金・不払い残業に関する「賃金関係」が 16.6%と最も多く、次いで解雇・雇い止め等の「雇用関係」が 15.9%となっている。
- セクハラやパワハラ・嫌がらせに関する「差別等」の相談件数は年々増加傾向にあり、2014 年は第 3 位となった（前年は第 4 位）。「職場で嫌がらせを受けているが、生活のことを考えると辞められない」「セクハラを受けているが、契約を打ち切られることが怖くて拒否できない」などセクハラ・嫌がらせに悩む非正規労働者からの相談も散見された。
- 2013 年に引き続き、2014 年も女性のための労働相談を PR したことにより、マタハラに関する労働相談も増加してきている。また「辞めたいけれど、辞めさせてくれない」「退職を申し出たら、損害賠償を請求された」など退職をめぐる若者からの相談が増えている。

以上